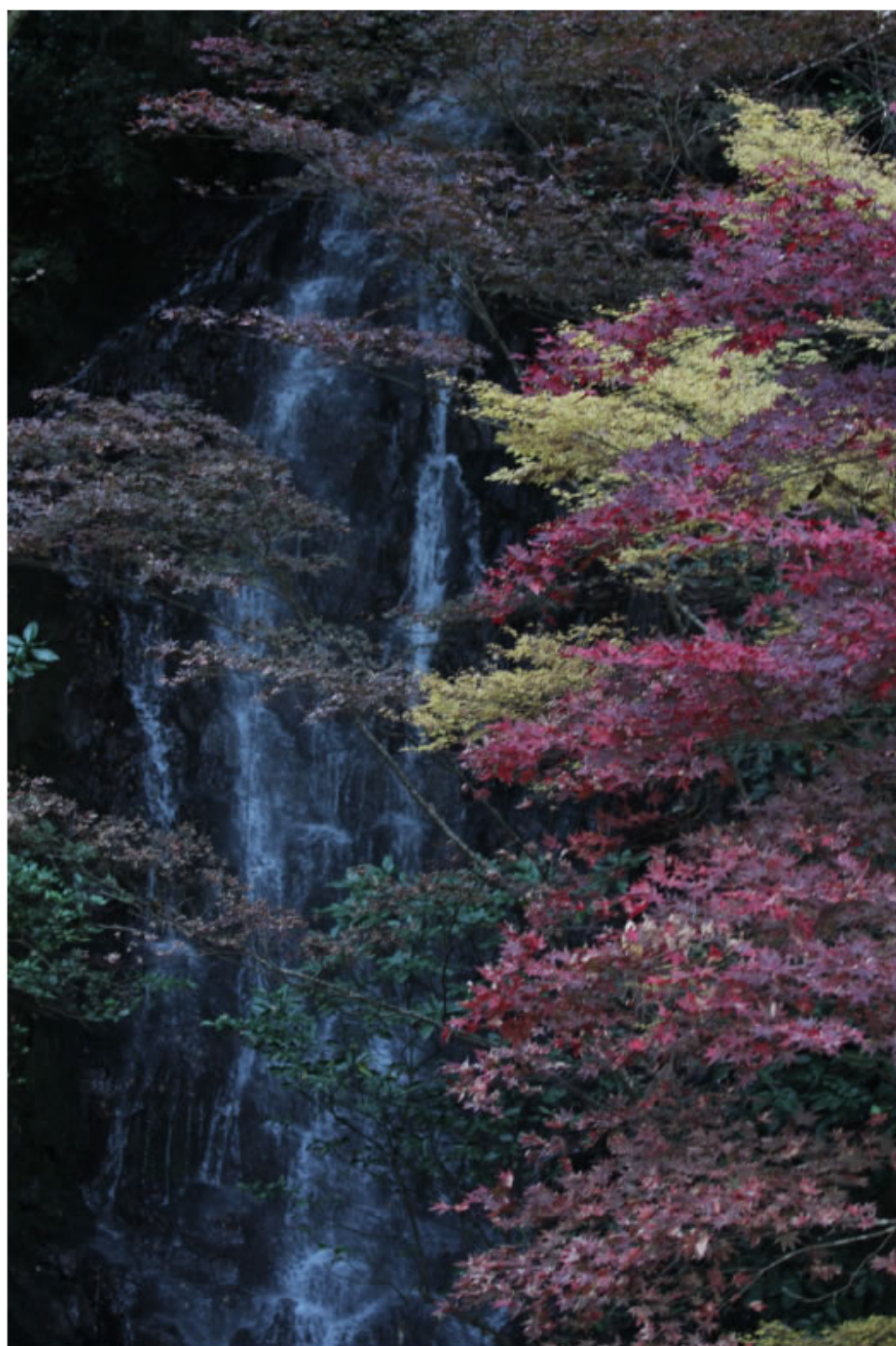


# 『 水と生きる2 』

～水の力～



写真：観音の滝 撮影：岩里正生

聖陵会 水環境委員会

2012年

## 目次

大分県日田市  
聖陵会・水環境委員会

- 1、はじめに
- 2、年間活動
- 3、里山植林、ダム班・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 4、水浄化班・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 0
- 5、マイナスイオン、リバーフェスタ班・・・・・・・・・・ P 1 5
- 6、農薬、石鹼班・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 9
- 7、活動を広める班・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 1
- 8、おわりに



## はじめに

今年は7月3日、14日に起こった集中豪雨により九州北部に甚大な被害がもたらされました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今回の災害で今もなお仮設住宅等での生活を送り、未だ以前の生活を取り戻せていない方々もおられます。1日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

昨年3月に起こった東日本大震災、また今年の九州北部豪雨による自然の脅威「水の恐ろしさ」と「水の力」を改めて知らされた1年だったと思います。「水」は生きていく上でなくてはならない大切なものですが、時に私達を脅かすものとなります。「水」とどう向き合っていくか、どう共に生きるか今年も改めて考えさせられる年となり、冊子のテーマを今年も昨年に引き続き「水と生きる2」としました。

今年も「里山植林・ダム班」「活動を広める班」「マイナスイオン・リバーフェスタ班」「農業・石鹸班」「水浄化班」5つの班に分かれ活動を行ってきました。昨年「えひめA I班」として活動してきた班は、えひめA Iだけに限らず水浄化に関することについて活動をしていこうということで名前を「水浄化班」に変更し、ろ過装置による水質実験、くるめウスでの活動報告も行いました。また、水質汚濁を起こす原因のひとつとも言われる台所排水や洗濯排水、手荒れやアトピー性皮膚炎・喘息など人体への影響も大きいと言われている合成洗剤について今年は改めて問題提議し何か活動をしていこうと、農業班にお願いし廃油を使った石鹸作りを行い、リバーフェスタでの配布、パネル展示を行いました。各班の今年の詳しい活動内容は冊子の中でご紹介致します。

私たち水環境委員会は仕事の合間に活動を行っている為、環境についての勉強もまだまだ不十分で、決して満足いく活動が行えているとは言えません。そういった中、限られた時間の中で一人ひとりが「水」について考え何かできないか、そういった意識をもち続けることが大切ではないかと思います。水環境に関するニュースや新聞記事に目を向けたり、これまで行ってきた活動を地道に続けるといった小さなこと、当たり前のことを継続して行っていけるよう、今後も委員全員協力し取り組んで行きたいと思っております。

最後になりましたが、今年1年活動を行うにあたり御指導、御鞭撻を頂いた皆様に感謝と御礼を申し上げます。今後とも聖陵会水環境委員会を宜しくお願い致します。



聖陵会 水環境委員会  
委員長 井上勇雄



## 年間活動

- 3月 大山ダム植林祭 参加 (植林・ダム班)  
活動報告記載 植林祭 うらうちゅう・メディネット (活動を広める班)  
水環境ネットワーク 参加 (農薬・せっけん班)
- 4月 NPO初島植林園総会及び自然観察会 参加 (植林・ダム班)  
観察会 うらうちゅう・メディネット記載  
マイナスイオン測定 実施 (マイナスイオン・リバーフェスタ班)  
携帯ボトル浄化機実験 実施 (水浄化班)
- 5月 せっけん作り (農薬せっけん班)  
おいしい水マップ うらうちゅう記載 (マイナスイオン・リバーフェスタ班  
・活動を広める班)  
浄化装置経過観察・記録実施 (水浄化班)  
窯ヶ瀬子どもの森ボランティア参加 (植林・ダム班)
- 6月 せっけん作り (農薬・せっけん班)  
堂迫子供の森ボランティア参加 間伐及び竹の除去作業実施 (植林・ダム班)  
リバーフェスタ会議 (マイナスイオン・リバーフェスタ班)  
浄化ボトル水質検査実施・三隈川の水 (水浄化班)
- 7月 植林地の下草刈り 参加 (植林・ダム班)  
リバーフェスタ会議 (マイナスイオン・リバーフェスタ班)  
せっけんの歴史・廃油せっけん作り方・合成洗剤の記事作成 (活動を広める班)  
マイナスイオン調査実施 (マイナスイオン・リバーフェスタ班)  
浄化装置を動かし透明度調査 (水浄化班)  
くるめウス発表『浄化装置・浄化ボトル・ポリグルレスキューについて』 (水浄化班)
- 8月 洗濯キャラバン見学 (農薬・せっけん班)  
聖陵会夏祭り 環境ブース展示  
『せっけんの歴史・廃油せっけん作り方・合成洗剤がなぜ悪いのか』 (活動を広める班)  
リバーフェスタ参加  
リバーフェスタ手作り石鹸配布 (農薬・せっけん班)  
リバーフェスタ展示『せっけんの歴史・廃油せっけん作り方』 (活動を広める班)
- 9月 リバーフェスタ うらうちゅう記事記載 (マイナスイオン・リバーフェスタ班  
・活動を広める班)
- 10月 おいしい水マップ作成 (マイナスイオン・リバーフェスタ班)・浄化装置水質検査結果  
(水浄化班)・冊子の原稿 (全班)
- 11月 冊子作り仕上げ



# 里山植林・ダム班

石松義彦、江藤由美、草本良子、貞清和代、岩里千津子、小関恵太



## 『年間活動報告』

- H24・3・4 大山ダム植林作業（NPO初島林園主催）
- H24・4・29 NPO初島林園通常総会及びいいちこの森観察会
- H24・6・3 大鶴・堂迫こどもの森ヒノキの巻き枯らしとモウソウ竹の整理作業
- H24・7・28 堂迫こどもの森 下刈作業
- H24・9・4 岩里理事長、NPO初島林園・神川理事長と飲み会

冊子を作成するにあたり、今年一年の活動を振り返ると色々な事がありました。一番衝撃的だったのがストリームのデイサービスの裏に植えている3年物のチャンチンモドキの枝が強風にて折れる瞬間を見たことでした。幸いにも命拾いをし、その後何事もなかったように成長しているので、安心しました。今年は7月に2度も水害に遭い、地球環境の変化を感じさせる年だったと思います。そんな一年でしたが活動もでき、無事に冊子作りに至れる事を嬉しく思います。

里山植林・ダム班リーダー 石松義彦



## 大山ダム・植林

3月4日の日曜日に行われたNPO初島林園主催の植樹祭に参加してきました。

当初は雨の予報で中止になるのではないかととても心配でしたが、雨も上がり曇天で少し肌寒い1日であったが植林にはちょうど良いくらいでした。

初島林園の神川理事長には毎年お世話になっており、植林班発足と同時に参加させていただき、これまで小野や大鶴の子供の森での作業が多かったのですが、今年は国土交通省の後援、大山ダム水源林再生・水源地域活性化事業の一環として初めて大山ダムで行われました。事前告知もあり、60名程の参加があり、NPOの方をはじめ、国土交通省、水資源機構大山ダム、日田林工の先生、生徒、一般の方等様々な方々の参加があり、関心の高さをうかがい知ることが出来ました。聖陵会からも水環境委員会6名とボランティア委員会から1名（子ども4名）の11名参加してきました。9時30分からの受付後植樹についての説明があり、10時から作業開始となりました。

主な目的はダムの造成工事により、空き地となった場所に雑木山、紅葉山を作ることで毎年植樹しているチャンチンモドキをはじめとして、イチョウ、モミジ、マツ、スギ等の針葉樹や広葉樹等の常緑樹、落葉樹の混交で1200本もの苗木を植樹しました。

場所は急な斜面もなく、子供でも参加できる場所でしたが石がとても多く、非常に困難しました。石をきちんと取っていないと苗木は定着しないので1本植えるのに時間を要しましたが多数の参加もあり、作業自体は1時間程で終了しました。

植樹の目的は自然林の再生、復活。水源域の治水、洪水の防止などですが、自分が植樹した木の5年後、10年後の成長した姿が見られ後世まで残るとするのはとてもやりがいのある作業であり、楽しみでもあります。

7年間植林班で活動してきましたが自分の植えた苗木が年々成長している姿を見ると少しは自然のために役に立っているようでとても感慨深いものがあります。

植林が早く終わったこともあり、大山ダムの方からダムの概要について説明がありました。ダムはまだ試験的に行っている段階で本格的に稼働はしていないが、良好な河川環境を維持するために必要に応じて放水をしていくとのことでした。

今年は昨年引き続き大山川ではフラッシュ放流が行われた。川の石についた古い藻等を流し、新しい藻の再生を促し、それが魚のえさとなることで『清流の復活』になればとても良いことだと思います。

但しダムが出来たことによる生態系環境変化（生態系の崩壊）が起きないように引き続き見守っていきたいと思います。













## モウソウチク

梅雨入り間際の6/3（日）の日曜日に大鶴、堂迫こどもの森にて行われたモウソウチクの除伐作業に参加してきました。水委員から1名全体でも6名程とかつてない少なさであり、日差しも強く大変な作業になるだろうと覚悟していたが、集中して作業した為午前中に終了することが出来ました。

作業の主な目的は在来種の保護及び、モウソウチクの侵入を防ぎ里山の自然環境を整える事にあります。竹は侵食力がとても強いため定期的にこういった作業を行わなければなりません。大変な作業でしたがやりがいはとてもあります。

## 神川理事長と

いつもお世話になっているNPO初島林園の神川理事長との飲み会を初めて行いました。これは岩里理事長の希望もあり実現することが出来ました。神川理事長、岩里理事長と多忙ながら都合をつけていただいた事にとっても感謝しています。自分自身は作業の時に良く話をしていましたが、いつかゆっくりと酒を酌み交わしながら色々な話が出来ればと思っていたのでとても楽しみでもありました。短い時間でありましたがとても楽しい時間でした。又是非できればうれしく思います。



# 大山ダム班

## H24.3 大山ダムフラッシュ放流



ここから、放流し  
川の増水をして、  
こけの量や水質検査を  
しています(・V・)





#### H24.4 大山ダム 最高水位

「非常用口放流4門から越流試験100年に1度の大雨時に越流する」

\*越流試験とは・・・堤体のひずみや漏水が想定の範囲内かどうか計測ダム湖周辺ののり面が崩れてないか巡視 試験の結果異常なし。

最高水位になると  
四つ穴から  
放流されます!!(・O・)



#### H24.6 梅雨

6月梅雨時期  
放流中なので水位は  
減っています。



#### H24.7 九州北部豪雨



集中豪雨で  
多大な被害が  
ありました。  
ダム湖にも沢山の  
流木が・・・



H24.9 試験湛水 計画より4ヶ月遅れ



完成したダムの水位を変えながら、堤体のひずみや漏水が想定内かダム湖ののり面が崩れないかなど調べる目的

ダム湖に大量の土砂や木が流入して水が濁り、放流には上層のきれいな水だけを取水最低水位になるには11月ごろ

ダム下流の赤石川に合流する大山町の吾々路川で堤防が決壊。  
土石流により大きな被害がでた  
ダムがなければ水位が実際より約2.2メートル上がり被害が  
もっと拡大していたと考えられる





# 水浄化班

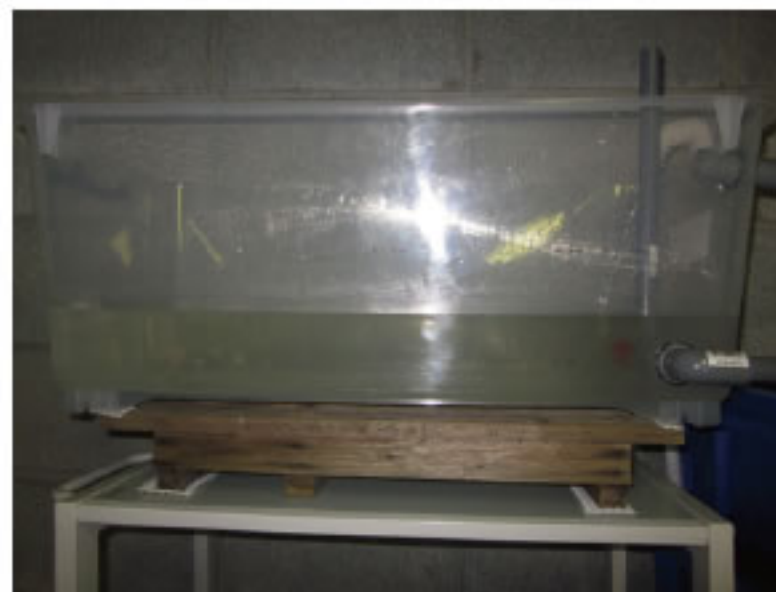
重石隆司 平将門 中村健太郎 熊谷佳祐



H23年3月11日に日本の太平洋三陸沖を震源として地震が発生しました。地震で水道の供給が止まった時、復旧するまでに2~3日掛かり、飲み水の確保が困難な状態になりました。そこで、聖陵会水環境委員会としてこのような震災時に住民の皆様に飲み水を配給できるような取り組みを行っております。水浄化班の活動内容を紹介します。

## 原水貯留槽【げんすいちよりゅうそう】(沈殿槽を兼ねる)

水浄化装置について  
三隈川の水をくみ上げ  
原水貯留槽に(右の図  
の容器)入れます。



## 粗ろ過砂利槽【あらろかじゃりそう】

(人工の川床の濁りが少ない伏流水を  
作る工夫)

上の段の原水貯留槽から砂利(直径0.5mm~3cm)

の入った青い容器に流れ、この時何が行われているかと言うと小石の表面で汚れを吸着、小石の表面と間で活躍する微生物等が濁りをキャッチしています。この容器を3つ通過し、緩速ろ過槽へ流れていきます





## 緩速ろ過槽【かんそくろかそう】

### (仕上げの生物浄化槽)

※緩速ろ過とは、生物群集が安心して活躍できるという意味  
→生物浄化法

上の粗ろ過砂利槽を3つ通過し、右の図の緩速ろ過槽へ流れて行きます。緩速ろ過槽には、砂(0.5mm~3cm)が入っており粗ろ過砂利槽と同様にさらに濁りをキャッチしていきます。



## 浄水貯留槽【じょうすいちよりゅうそう】

### (飲用可の水を貯める)

砂の底まで流れた水を浄水貯留に流れ、ろ過水として二重の容器の真ん中へ貯水して行きます。この時点での水質データの結果、生活用水が確保出来ています。

溢れた分は最初の原水貯留槽へ戻し繰り返しろ過していくようになっています。





## 三隈川の水で実験

採取場所	三隈川		
採取日時	H24年9月11日		
採取時状況	天候-曇り	気温/水温(°C)	28.0度/20.0°C

水質結果下記の通り報告します。

検査項目	単位	検査結果	定量下限値	検査方法
一般細菌数	CFU/mL	35000	-	上水試験方法V-2 1.4.2
大腸菌	-	検出	-	上水試験方法V-3 1.5.2(3)

浄化装置から採取した水質データ

検査項目	検査結果	単位	基準値
一般細菌	900	個/ml	100個/ml以下
大腸菌	不検出		不検出
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	1.7	mg/l	10mg/l
塩化物イオン	9.4	mg/l	200mg/l
有機物(全有機炭素:TOC)	2	mg/l	3mg/l
pH値	7.3(21°C)		5.8以上8.6以下
味	-		異常でないこと
臭気	異常なし		異常でないこと
色度	3	度	5度以下
濁度	1	度	2度以下
鉄及びその化合物	0.05	mg/l	0.3mg/l以下
カルシウム、マグネシウム(硬度)	60	mg/l	300mg/l以下

以上の活動内容を7月22日にくるめウスにて発表しています。この時に非常時に役に立つ、ポリグルレスキュー、浄化ボトルの説明も行いました。

発表していく中で会場に来ている市民の方から質問も多くあり水浄化班の取り組みを聞き理解してくれていました。発表の場があれば積極的に参加していきたいです。



まだまだ、未完成な部分がありますが、今後は早期実用化を目指し経過を追っていき、報告をしていこうと考えています。



## マイナスイオン・リバーフェスタ班

末松涼香・山内明子・森 辰夫・末松ひとみ・熊谷 彩



私たちマイナスイオン班は、これまで、身近にあるマイナスイオンの調査を行ってきました。今回は、もっとも身近な家電について調査しました。調査結果は以下のとおりです。

物品	不快指数	温度	湿度	イオン数値
ドライヤー	70	24℃	60%	2860
加湿器	74	28℃	48%	434
クーラー	70	24℃	50%	320
掃除機	72	27℃	40%	76
冷蔵庫	65	24℃	55%	88
洗濯機	70	26℃	60%	71

この結果、身近にある家電からは、ほとんどマイナスイオンは発生していないことがわかりました。(ドライヤーの数値が高いのは、マイナスイオンドライヤーで測定したため)

### 〈リバーフェスタについて〉

先日の8月26日(日)に毎年「川が遊園地になる日」というテーマで行なわれているリバーフェスタに今年も参加させて頂きました。6月中旬よりリバーフェスタ実行委員として2週間に1回のリバーフェスタ会議に参加しました。今年も昨年と同様、快晴の1日でした。今年は7月3日と14日の九州北部豪雨による花月川氾濫で、川の怖さと川遊びの楽しさを知ろうと少しずつでも水環境に興味を持っていただき、環境問題についても考えていただけたらありがたいと感じました。

今年は、環境ブースと共に廃油石鹼の無料配布も行いました。





## <おいしい水マップ>

### ① 東部簡易水道 第二水源

花月川が流れる日田市羽田にある水源地。

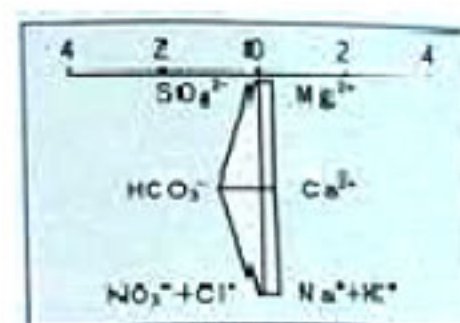
地下水を水源にしています。簡易水道水源として管理され、昭和53年から羽田・有田地区一帯に給水されています。他の水源とは混合されず単独で使用されていて、井戸の深さ187m、一日の最大取水量は257m<sup>3</sup>。水質は日田盆地に広く分布するナトリウム-炭酸水素型の清浄な水です。



成分・・・溶存成分量 149mg/l (平均よりやや少ない)

ナトリウムイオン 7.8mg/l、カリウムイオン 2.9mg/l

カルシウムイオン 6.6mg/l、塩化物イオン 2.9mg/l



### ② 天瀬簡易水道 第一水源

日田市天瀬塚田の、本城地区二川に湧く先水を水源としています。昭和40年代より地区の簡易水道水源として使用されているこの湧水は、一日の最大取水量1260m<sup>3</sup>で、取水されない水は溢れ出て川に流れ込んでいるほどに水量豊かな水です。

水質はナトリウムの割合が多いカルシウム-炭酸水素型。溶存物質の少ない良質の湧水です。

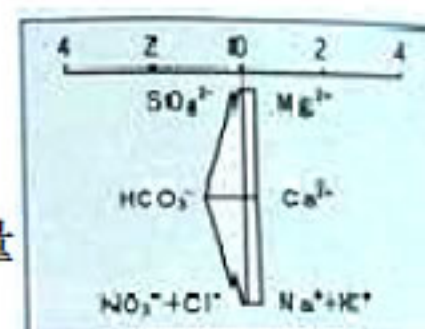


成分・・・溶存成分量 115mg/l (平均より少ない)

炭酸水素イオン 42mg/l (比較的多い)

ナトリウムイオン 5.9mg/l、カリウムイオン 2.1mg/l

カルシウムイオン 6.3mg/l、ケイ酸 51mg/l (溶存成分量の40%を占める)





### ③津留川原簡易水道 水源

津江山系県立自然公園内の酒呑童子岳の南東、日田市上津江の川原地区に湧く湧水を水源にしています。簡易水道水源として日田市が管理して、一帯の地区の水道水として使用されているこの水源の水は、山間部の高所にあるためか、ミネラル（溶存成分）が少ない湧水です。硬度17mg/lの超々軟水です。

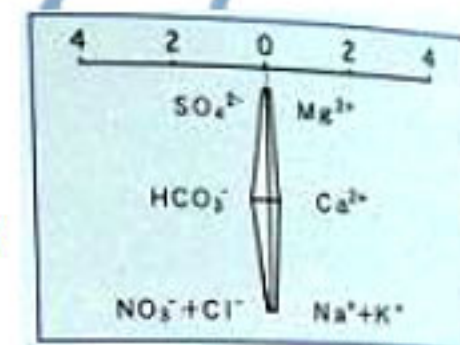


成分・・・溶存成分量 69mg/l（平均より少ない）

ナトリウムイオン 2.9mg/l、カリウムイオン 1.4mg/l

カルシウムイオン 5.0mg/l、ケイ酸 31mg/l（比較的多い）

マグネシウムイオン 1.2mg/l、硫酸イオン 2.3mg/l



#### 平均値

成分	mg/l	成分	mg/l
ナトリウムイオン	10	炭酸水素イオン	65
カリウムイオン	2.5	塩化物イオン	5.0
カルシウムイオン	15	硝酸イオン	2.5
マグネシウムイオン	4.0	硫酸イオン	6.0
ケイ酸	50	※1 溶存成分量	160

※1 溶存成分量とは水に溶けている化学物質の総量のこと。



## 合成洗剤と無公害石けん

坂本美紀 矢羽田剛平 森山ひとみ 高倉千恵美



合成洗剤と無公害石けんの大きな違いは主原料です。

石油が主原料の合成洗剤は・・・

### 1、分解性が低い。

合成洗剤→約1ヶ月で20%しか分解しない。

石けん→約1日で分解する。その為合成洗剤に含まれる界面活性剤は、下水処理でも除去できず、回りまわって水道水に残留する事になります。

### 2、人間の体内に悪影響を与える。

①成分は分解されないので微生物を殺傷し、生態系への影響が出る。

②水質汚染や赤潮の原因。

③発ガン性物質と出会うと相乗効果があり、発ガン率が高い。

④衣類などから肌に直接入る為、アレルギーやアトピーなどの皮膚障害の原因の1つになる。

⑤肝臓や生殖器などに悪影響がある。

主成分の合成界面活性剤が体内に入ってしまうと不妊症を起こしてしまうと言われています。妊娠したネズミの体表に合成洗剤を塗ると言う実験で奇形児が生まれたり、死産率が高くなる事が報告されています。このように受精卵が子宮に着床してしまう事を阻害し、たとえ受精卵が着床してもその発育を阻害してしまい流産してしまうのです。また乳幼児は免疫力の問題で合成洗剤に対しては非常に弱いとされています。しかも体が日々成長しているので、その時期に合成洗剤が体内に入ってくれば体に何が起こるか解ったものではない。

このように環境にも人体にも大きな影響を及ぼすと言われています。

一方 無公害石けんは・・・

動植物性の油脂が主原料で河川へ流されてもすぐに分解されます。

アトピーや酷い肌荒れの人にはおすすめです。

素人考えで「原料の石油はやめてしまえばいいのに」と考えたりもします。

環境問題が取り上げられる中、自分に出来る事はあると思う時、洗剤を替える事ならすぐに実行にうつせると思います。このような働きかけを行っている団体は全国いくつもあります。

一人でも多くの方がもっと身近な環境問題に興味を持ってもらいたいものです。

解ってはいても、これを全国民に広めるのは簡単なようで難しい。

まずは、家庭でも出来る廃油石けん作りから始めてみるのもいいかもしれません。



### <石けん作りの前に>

廃油石けんを作る前に注意しなければいけない事は、苛性ソーダという薬品を用いる事です。苛性ソーダは劇薬で目に入ると失明してしまいます。また化学反応によって熱を発生し、肌に触れると火傷をしてしまいます。取扱いと換気には十分注意して下さい。

### <材料>

- ・ 苛性ソーダ 84g  
(薬局で購入できます。印鑑が必要です。)
- ・ 廃油 600ml
- ・ 水 300cc



### <道具>

オイル缶 (ステンレスボール) ・ 軍手 ・ マスク ・ かき混ぜる棒  
固める容器 (プリン、豆腐などの容器や牛乳パックなど)

### <作り方>

- 1、オイル缶に苛性ソーダを入れ、静かに水を入れてゆっくりかき混ぜて溶かす。  
(\*注 この時、熱を発生します。)



- 2、廃油を棒に伝えながら入れ、廃油がキャラメル色になるようかき混ぜる。  
(初めは出来るだけ早くかき混ぜる。)



- 3、20分～30分位かき混ぜると粘度が出て固まりかけるので容器に移す。



- 4、数日～2・3週間乾かし、型から外してさらに乾かす。
- 5、白く固くなれば完成。出来上がりはアルカリ度が低くなるように、1ヶ月以上寝かせると量質の石けんになります。

### <用途>

洗浄力が強く万能です。豆腐などの空き箱に廃油石けんを作っておけば食器洗いに流し台の掃除にとそのまま使えてとても便利です。  
他にも洗面台や浴槽、襟汚れや靴下、靴などしつこい汚れにと様々です。



## 活動を広める班

- ・梶原和美（リーダー）・上村 匠・後藤美和
- ・安達由佳・幸野晴香・櫛山弘之



### <年間活動報告>

- H24・ 3月 聖陵会ホームページ、聖陵会うらうちゅうに活動掲示
- H24・ 8月 聖陵会夏祭り「聖涼際」での環境ブース展示  
せっけんの歴史・作り方について  
リバーフェスタでの手作りせっけんの紹介
- H24・ 9月 リバーフェスタ活動報告うらうちゅう記事記載
- H24・ 11月 冊子編集、作成

### 石鹼の起源（環境ブース展示）

人類初の石鹼は、紀元前 3000 年頃にできたと言われています。

古代ローマ時代の初めごろ、羊を焼いて神に供える風習がありました。この羊を火であぶっているとき、したたり落ちた脂肪が木の灰に混ざって石鹼のようなものができたのです。その石鹼がしみ込んだ土は汚れを落とす不思議な土として珍重されました。紀元前 3000 年代、メソポタミア（現在のイラク）でも石鹼が作られていました。シュメール人が羊毛の洗浄と石鹼の製法について粘土板にくさび形文字で記しています。作り方は木灰にいろいろな油を混ぜて煮たというもので、塗り薬や織布の漂白洗浄に使われていたそうです。

### 石鹼の日本デビュー

日本に初めて石鹼が入ってきたのは 16 世紀。

種子島への鉄砲伝来と同じころです。このころの石鹼は大変な貴重品で、手にすることのできたのは、0 将軍や大名など限られた人たちだけ。洗浄剤というよりは、下剤などの薬用に使われたことのほうが多かったようです。石鹼を持ち込んだのはそのころ交易のあったポルトガルの船。ポルトガルでは石鹼のことをシャボン(sabao)と言いますが、日本でも第二次世界大戦前くらいまでこの呼び名が使われたそうです。



## 〈ホームページ・うらうちゅうに掲示〉



### リバーフェスタ（水環境委員会）

水環境委員会では、今年も、三隈川のリバーフェスタに参加しました。

今年は、北部九州を襲った豪雨で開催も危ぶまれていましたが、実行委員を始めとする関係者の協力で開催できる事ができました。

毎年、救護と環境ブースまたジュースの販売を行っています、今回は、合成洗剤が環境に及ぼす影響や廃油石鹼の作り方、石鹼の歴史についてパネル展示を行い、手作り石鹼を配付しました。救護では、10名ほどの方が擦り傷などでこられ処置を行い、大きな事故もなく終了しました。



### 水環境委員会～植林班より～

3月4日（日）に大山ダムの森で行われた、国土交通省・水源林再生事業後援、いつもお世話になっているNPO 初島林園主催の植樹祭に参加して来ました。当日は雨の予報でとても心配されましたが無事に行われ、150種、1300本もの苗木を聖陵会職員7名を含む60名程で行いました。約1時間程で作業は終了し、時間も余ったので、水資源機構大山ダム建設所の方から建



設中の大山ダムについての説明がありました。

程なくお昼になり昼食を頂いて解散となりました。植樹した木は後世まで残るのでとてもやりがいがあります。

作業も午前中で終了するので多くの方のご参加をお待ちしています。

植林・ダム班 班長 石松義彦



## おわりに

1998年2月1日は、忙しく喧噪の中で過ぎた。アンコール小児病院開業の日であった。無事に一日の職務を終えて中庭で夕日を浴びて立っていると、内田さんが話しかけてきた。「先生はこの地で一番大事なものは何だと思えますか?」、自分は即座に「水」と答えた。彼はそれを聞いて「それでは明日一緒に井戸掘りに行きましょう。」と誘ってくれた。その時点で既に280ヶ所の井戸を掘っていた。彼は東大寺のお坊さんで現在、シェムリアップで孤児院をやっている。今日(2012年11月20日)あたり砂原賢士(医師)や本川登志子(医局秘書)、宮野日和(看護師)、森山ひとみ(臨床検査技師)達が訪れているはずだ。

次の日早く町を出発し4ヶ所位の村に寄って井戸堀の手伝いをしながら奥地に進んだ。当時は未だ地雷排除が充分でなく前方を注視しながら運転を続けた。2つの村で村の人総出で「水が出た。」と喜んでいたら閉口したのは村の人が歓迎のつもりで水を持ってきた事だ。その汚れて錆びた空き缶に入れられた水(ありとあらゆる細菌を含んだ)を飲むのは自殺行為だとわかっているが、村人の笑顔と底抜けに明るい空が水を飲むことを決心させた。それを断ることは誰にも出来ないだろう。同行した看護師の日野直子も目をつぶって飲んでいて。

更に奥地へ進んだが、道を間違えて何やら物騒な村に入った。そこはチュンピカ(モンドルバイ村)と呼ばれる戦争で手足を失った人の村であった。彼等はその村で何とか生きてきたが、突然政府から出て行く様に命令され対峙していた。リーダーは、27歳の足の無い青年だったが、ここを出たら村人の半数以上の人死ぬだろうと考えていた。ポルポト時代の恐ろしい経験があるからだ。あのころ、虐殺された人の多くは村から村へ移動させられている途中だったからだ。岩里病院やストリームで研修したウッディやソッティの両親もそういう中で亡くなっている。リーダーは、とても悩んでいた。政府に、反抗して戦えば皆死ぬだろう。追い出されて、どこかに移動しても同じような運命になるだろう。

彼等は、自分達が日本の医療プロジェクトチームと分かると、すごく柔らかい態度になった。村のお酒を酌み交わし太陽が地平線の端まで赤く染める中、別れを告げた。車が少し動き出したとき、リーダーがコップ一杯の「水」をもってきた。二人で半分ずつ飲んだとき、彼が言った。「自分達は、援助してくれとか、味方してくれとは言うつもりは無い。只、私達みたいな人が生きているということを忘れないで欲しい。」という悲痛な言葉だった。

今、あの村がどうなったかは分からない。最後に、二人で飲んだコップ一杯の水、その中に映えた夕日だけが記憶の中に残っている。



聖陵会理事長 岩里正生





写真：菊池溪谷 撮影：小南達矢